

第 63 回 火力専門委員会 溶接分科会 議事録(案)

1. 日 時：2015 年 1 月 26 日（水） 13 時 30 分～17 時 40 分
2. 場 所：日本機械学会 第 3・4 会議室
3. 出席者：青山(東大)、樺田(MHPS)、茂田井(東電)、大橋(中電)、長谷川
(発電技検)、逢澤(MHPS 日立)、飯島(日溶協)
欠 席：山下(神鋼)、水谷(東工大)、飯田(東電)、幅野(IHI)、原田(東芝)
オブザーバー：川端(関電)、鈴木(東電)
事務局：原

4. 配付資料

- 63-1 第 62 回溶接分科会議事録(案)
- 63-2 溶接分科会委員名簿
- 63-3 第 70 回火力専門委員会議事録(案)
- 63-4 第 72 回発電用設備規格委員会議事録(案)
- 63-5-1 追補対比表
- 63-5-2 追補対比表(発電技検分)
- 63-5-3 追補対比表(中部電力分)
- 63-6-1 審議履歴表
- 63-6-2 審議用レビュー票(JWES 分)
- 63-6-3 審議用レビュー票(東電分)
- 63-6-4 審議用レビュー票(MHPS 分)
- 63-6-5 審議用レビュー票(MHPS 日立分)

5. 議事

- (1) 前回議事録確認 [資料 63-1]
前回議事録(案)について確認を行い、議事録が承認された。
- (2) 分科会委員・役員の承認 [資料 63-2]
出席委員全員の賛成により、川端氏を新任候補として次回火力専門委員会へ推薦することが承認された。
- (3) 報告事項
(3-1) 火力専門委員会報告 [資料 63-3]
第 70 回火力専門委員会の審議内容について報告された。主要な事項は以下のとおり。
 - 火力専門委員会委員・役員の推薦承認
 - 各分科会委員・役員の承認
 - 第 62 回溶接分科会報告
 - ・ RT と UT の性能比較について、分科会審議における意見の紹介と審議結果の報告

- ・2014 年 9 月の火技解釈の改正に関連した、委員からコメントの紹介
今回の火技解釈の改正に追加された ISO,ASNT の年版は既に古くなっている可能性があるので、この点を考慮してレビューを進めるように。
審議の結果、以下の対応とする。

基本的には火技解釈に引用されている ISO,ASNT,EN の年版どおり取り入れることとするが、ISO,ASNT,EN の最新版の取り入れによりメリットがあると判断できれば取り入れを検討する。可能な範囲で最新版の内容を確認する。

(3-2) 規格委員会報告

[資料 63-4]

第 72 回規格委員会の審議内容のうち、火力に関連する内容が報告された。
主要な事項は以下のとおり。

- 火力専門委員会委員・役員の承認
- 火力専門委員会報告・・・火力専門委員会および各分科会の活動状況などが報告
- ・火技解釈の許容応力の算出に用いる安全率の 3.5 への引下げに関する経済産業省における検討状況についての質疑を紹介。
- 火力専門委員会関連の審議事項はなし。

(4) 審議事項

(4-1) 追補対比表の確認

[63-5-1,2,3]

茂田井幹事より、追補版の発行、対比表作成に至った経緯について説明があった。また、各委員が準備した対比表について審議を行い、今後の進め方を決定した。

説明の概要、今後の進め方は以下の通り

- 2012 年版の火力用発電設備規格のエンドースを見据え、あらかじめ分かっている誤記を修正するため、正誤表の発行を準備していたが、材料分科会において、高クロム鋼の強度見直しに係る許容応力の見直しのため、追補版を発行することになった。このため、正誤表の代わりに、正誤表の内容を追補版に取り込むこととなった。
- 原則として誤記や記載漏れを対象とし、表現を分かりやすくするもの、改行の見直しなどは含めない。判断に迷うものは作成いただき、最終的には三役にて判断することとした。
- 非破壊試験員の資格など 2012 年版にて火技解釈を引用している箇所、2012 年版発刊以降に火技解釈の改正により変更となっている箇所については、改正された内容を追補版に反映する方向で対比表を作成する。
- 今後の進め方
 - ・2 月 25 日の火力専門委員会に上程することを目標に作業を進める。
 - ・2 月 6 日までに、各委員が追補版対比表を見直して、茂田井幹事と事務局に送付する。
 - ・追補版に反映する（対比表に含める）誤記修正内容のうち、分科会にてし

ビュー票審議がされていないものについては、修正の可否を判断する必要があることから、対比表の右端に欄を追加して、レビュー票で審議済みかどうかを記載することとした。審議済みは○、未審議は×

- ・対比表のバックチェックにあたり最新のレビュー票が必要なため、各自最新のレビュー票を、CS キャビネットの[溶接分科会]-[O2 規格原稿案・レビュー票]-[TA1・2 詳細規定]の所定のフォルダに保存する。
- ・2月13日までに、審議履歴表の分担に従ってバックチェック(クロスチェック)を行う。
- ・2月20日までに、チェック結果に基づき、対比表の修正を行う。以後は、三役にて振分等を実施。

(4-3) レビュー票審議

1) 第Ⅶ章 アーティクルⅣ QW404~QW407(茂田井委員) [資料 63-3]

- ・QW-404.1 cross-sectional area 断面積で良いのか。
→改訂案どおり、断面積とする。
- ・QW-404.8 成分は、「10%以上の成分の変更」ではなくて、「成分の変更」とする。
- ・QW-404.35 electrode は直訳すれば電極となるが、内容的にはワイヤのことを言っているので、ワイヤとする。対比表もこの部分は元に戻す。
- ・QW-406.8 ASME の括弧書きの SI 値を採用し56℃としているが、100°F は他の条項では55℃となっているため、55℃に統一する。
- ・QW-407.9 理由の欄 JSME2011 → JSME2012 とする。

2) 第Ⅵ章 アーティクル 4(逢澤委員) [資料 63-5]

レビュー票審議時のコメントを反映して修正。

- ・T434.1.7、D490 変更区分を C → B とする。
- ・T463.2 変更区分:区分の根拠 人口傷 → 人工傷(誤記修正)

3) 第Ⅶ章 アーティクルⅡ、APPENDIX B [資料 63-4]

主に SI 単位反映を忘れていた分の反映を行った。

- ・QW-290.5 at least 3 inch 他の箇所のチェック、Hard Conversion のチェックを行う。

4) 第Ⅵ章 アーティクル 6(飯島委員) [資料 63-2]

次回審議を行う。

- ・T-777.3 MT 用の新しい代替蛍光励起波長によるライトについて、各委員の周りに知っている人がいれば、飯島委員へ事前に情報を提供する。

6. 次回開催予定

2015年4月20日(月)22日(水)、24日(金)を候補として、後日調整する。時間は13時30分から。